

林美美子文学賞

はやしふみこ

作品募集

● 最終選考委員 ●



撮影：三原久明

井上 荒野



撮影：三原久明

角田 光代



川上 未映子

主催／北九州市 協力／朝日新聞出版

「林美美子文学賞」創設にあたって

「心を噴きあげるようないい作品を書きたい」と願った林美美子は、生涯庶民に寄り添い、庶民的作家として昭和の激動期を駆け抜きました。

林美美子は1903年、行商人の子どもとして門司に生まれます(下関誕生説あり)。その後、尾道の高等女学校を卒業して上京。関東大震災や世界恐慌による不景気で定職にも就けず職を転々とするなか、彼女を支えたのは書くことでした。

「書いている時が、私の賑やかな時間であった。男に捨てられた事も忘れたし、金のない事も、飢えている事も忘れた」と。このころに書いた「放浪記」が思いがけずベストセラーとなり、その印税で欧州にも行きますが、時は日中戦争から太平洋戦争へと向かう暗い時代でした。

「ペン部隊」の一員として従軍しますが、敗戦。庶民的心情から戦争協力を惜しまなかった過去への自責と呵責の念が、時代の証言者としてペンを執らせませす。

戦後の悲惨な現実と、人間の過酷な運命を描きながらも、その作風は生の深みに思いを潜め、しみじみと味わい深いものとなっていきました。

ひたすら書き続けた美美子は1951年6月28日急逝。47歳。

美美子の作品は、時代や運命に翻弄されながらもたくましく生きようとする人々を支え、勇気づけ、今日まで読まれ続けています。

文学の力を信じて、林美美子文学賞を創設しました。

原稿送り先・お問い合わせ

〒803-0813 北九州市小倉北区内4-1
北九州市立文学館「林美美子文学賞」係
TEL. 093-571-1505 FAX. 093-571-1525

林美美子文学賞 検索

選考に関するお問い合わせには、一切応じられませんので、ご了承ください。

林美美子は

「放浪記」や「浮雲」などの傑作のほか、
「清貧の書」「晩菊」「骨」など
珠玉の短編小説を遺しました。

その林美美子にちなみ、
2014年(平成26年)中・短編作品を対象とした
「林美美子文学賞」を創設しました。

この文学賞をきっかけとして、
新たな文学の才能が世に羽ばたくことを期待し、
広く全国から作品を募集するものです。

林美美子

ヨーロッパから帰国後転居した、下落合の和様式洋館にて[昭和7年頃]



募 集 要 項

文芸の領域を広げる、才気にあふれた作品を期待します。その形式については問いません。

応募資格

- 年齢、性別、職業、国籍は問いません。

応募規定

- 日本語で書かれたオリジナルの未発表作品に限ります。
(ただし、第4回林芙美子文学賞の締切以降、同人雑誌など、商業出版ではない形で発表された活字原稿は、選考の対象とします)
- 原稿枚数は横長縦書きで、下記のとおりとします。

手書きの場合	400字詰原稿用紙で70枚以上120枚以内。読みやすい字で書いてください。鉛筆書きの原稿は不可とします。
ワープロの場合	原稿用紙を用いず、横長A4サイズの白紙に40字×30行として印字し、400字詰原稿用紙換算枚数を記入のこと。

- 応募作品には、400字以内のあらすじをつけてください(あらすじは、原稿枚数には含みません)。
- 本文原稿には通し番号(ページ数)を入れ、クリップまたは紐で綴じてください(ホッチキス留めは不可)。
- 同封の応募用紙に必要事項を記入の上、作品・あらすじと一緒に送ってください。
用紙がない場合は、作品に表紙をつけ、①題名、②氏名(ペンネーム使用の場合は本名を書き添えてください)、③生年月日、④性別、⑤住所、⑥電話番号、⑦E-Mailアドレス、⑧略歴(学歴、職歴、文筆歴)、⑨原稿枚数を記入してください。
(題名、氏名にはふりがなをつけてください)

応募規定を満たしていない作品は、規定外とし、選考の対象にいたしません。

募集要項及び応募用紙は北九州市立文学館のホームページからもダウンロードできます。
<http://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/>



応募締切

平成30年9月14日(金) ※当日消印有効

賞

大賞(1編) 賞金100万円 「小説トリッパー」(朝日新聞出版)に作品掲載
佳作(数編) 賞金10万円

発表

- 受賞作品は平成31年1月下旬に発表予定です。選考結果は、北九州市立文学館ホームページで発表します。
なお、受賞者には直接通知いたします。

注意事項

- 受賞作品の複製権(著作権を含む)、公衆送信権、映像化権等の利用権(二次利用を含む)は、北九州市に帰属し、受賞作品の出版・二次利用等を行う場合、受賞者は事前に北九州市との協議が必要です。
- 応募作品は返却しません。
- 応募後の内容変更は受け付けません。
- 作品の選考についてのお問い合わせには応じられません。
- 応募された方の個人情報については、本文学賞に関するもの以外には使用しません。
- 二重投稿はご遠慮ください。
- 事前選考(一次～三次)通過作品の題名、氏名(ペンネーム)を北九州市立文学館ホームページで発表します。二次選考通過作品の題名、氏名(ペンネーム)は、「小説トリッパー」にも掲載します。

最終選考委員より

井上 荒野

Inoue Areno

ほかの誰でもない、あなたがそれを書く意味。書かなければならない意味。それが伝わってくる小説を読みたいです。求めているのは言うまでもなく実体験などではなく、小説とあなたの心の奥底とを繋ぐ通路です。どんなに荒唐無稽でも、シニカルでも残酷でも、ハッピーエンドでもバッドエンドでも、小説となるためには、その通路が必要です。まずは奥底を覗き込む勇気を。そして、あなたがすでにわかっていることは、私もたいていすでにわかっています。わかっていることだけを上手に書いてあってもつまらないです。わからないから書くのです。そして私は答えを教えてほしいのではない。答えを知るために奮闘している小説を読みたいです。

1989年、「わたしのヌレエフ」でフェミナ賞受賞。04年、「潤一」で島清恋愛文学賞、08年、「切羽へ」で直木賞受賞。11年、「そこへ行くな」で中央公論文芸賞、16年、「赤へ」で柴田錬三郎賞を受賞。

角田 光代

Kakuta Mitsuyo

林芙美子はのびやかで正直で、地に足の着いた小説や随筆を書いた作家だと思う。そしていつも、なんだか愉快な感じに新鮮だった。この作家の名前が冠された賞ということで、林芙美子作品をそんなに意識する必要はない。けれどもたったひとつ、この新人文学賞において、林芙美子作品の持つ肝の据わったあたらしさは読みたいと思う。

あたらしさというのは、奇抜さや突飛さとは違う。じゃあ何か、とは言えない。まだ見ぬものだからだ。でも、まだ見ぬものに触れたとき、そのあたらしさに気づく自信はある。自分も書き手のひとりとして、つねにそれを求めているからだ。

2005年、「対岸の彼女」で直木賞受賞。ほか、「ロック母」で川端康成文学賞、「八日目の蟬」で中央公論文芸賞、「紙の月」で柴田錬三郎賞、「かなたの子」で泉鏡花文学賞、「私のなかの彼女」で河合隼雄物語賞を受賞。

川上 未映子

Kawakami Mieko

小説を書く動機と方法は何でもかまいませんが、「いま、自分じゃないと、この作品は書かれることがなかっただろうな」と心から思えるものを読ませてください。当然のことながら「一般的に素晴らしい小説」というものはなく、「その小説が固有に目指している素晴らしいさ」があるだけです。楽しみにしています。

2008年「乳と卵」で芥川賞受賞。ほか、詩集「先端で、さすわ さされるわ そらええわ」で中原中也賞、「ヘヴン」で芸術選奨文部科学大臣新人賞および紫式部文学賞、「愛の夢とか」で谷崎潤一郎賞、「あこがれ」で渡辺淳一文学賞を受賞。